

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：ポピンズナーサリースクール武蔵小杉	種別：保育所
代表者氏名：和泉 慎太郎	定員（利用人数）： 60名
所在地：〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-472 武蔵小杉東急スクエア5F	
TEL：044-738-2127	ホームページ： <a href="https://www.poppins.co.jp/">https://www.poppins.co.jp/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2013年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ポピンズ	
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員 16名
専門職員	保育士 9名 栄養士 1名 看護師 3名
施設・設備 の概要	（居室数）11 （設備等） 冷暖房・床暖房・空気清浄機 屋外遊戯場：170.00㎡
	0歳児室(1)22.83㎡ 1歳児室(1)33.75㎡ 2歳児室(1)21.80㎡ 3歳児室(1)33.67㎡ 4歳児室(1)22.28㎡ 5歳児室(1)23.38㎡ 調理室(1)11.67㎡ 医務室(1)10.02㎡ 事務室(1)9.50㎡ 乳幼児トイレ(2)19.11㎡

## ③理念・基本方針

理念：働く女性を最高水準のエデュケアと介護サービスで支援します。

教育方針：人生で最も重要な時期の人間教育を目指します

①寛容な人間：異年齢のお友達との触れ合いを通し、多様な価値観に触れ、人との関係性を築いたり、協調する大切さを学びます。

②聡明で愛情深い人間：「ダメ」といった禁止語の代わりに、「どうして？どうしたいの？」と問いかけます。会話の中で、人格を尊重する姿勢と論理的思考を育み、「他者への思いやり」を教える場でありたいと思います。

③探究心の旺盛な人間：日々のプログラムのほか、四季折々のさまざまなプログラムを通して知的好奇心を刺激し、お子様が自発的に取り組み、表現する力や考える力を伸ばします。

④グローバル社会で活躍できる人間：「異文化理解教育」をカリキュラムに取り入れ、視野の広い人間の育成に努めます。まずは自分に自信を持ち、自分の国や住んでいるところをよく知ることから始めます。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

大切なお子様の安心・安全をお約束し、保護者の皆様の負担を軽減いたします。最新のITシステムで先生たちと連絡帳をWEB上でやりとり。お子様の当日の朝の様子をいち早く共有することができます。

荷物は最小限（お着替えのみ）で大丈夫。布団やシーツ、紙おむつやタオルの準備（オプションサービス）があるので、忙しい朝の登園もラクラク。

毎日異なるプログラムで、お子様の可能性を最大限に引き出します。さらに、オリンピック出場経験のある一流アスリートを招いたプログラムも。

冷凍母乳のお預かり、離乳食から普通の食事まで働くママに寄り添い完全サポート。栄養士による食育や、アレルギー／宗教に配慮した給食のご用意も可能です。

各スクールは、事前予約で見学いただくことができます。

武蔵小杉は駅ビル直結で駅から徒歩5分以内という利便性のよさがあります。人工芝の園庭があり、のびのびと遊べ、作物（稲やさつまいもなど）を沢山育てています。また、室内には緑やビオトープを園庭に作ることでビルに囲まれた中にもお子様が自然と関わっていただけるように環境の設定をしています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年6月1日（契約日） ～ 2022年1月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成28年度）

#### ⑥総評

◇特に評価の高い点

**地域資源を活用し子どもが様々な体験や交流ができる機会を設けている**

駅ビルの中に位置している保育園であり、駅から徒歩5分以内で送迎ができる環境にある。商業施設内であることから利便性が高く、日用品などの買い物もスムーズにできたり、テナントと交流する機会も得られえたりしている。また、地域の高齢福祉施設やハロウィンのイベントではテナントの協力を得て交流ができるようにしている。地域交流を通して、多世代交流や他保育園の園児との関わりを持つことができ、散歩時には職員が見本となり近隣の方に積極的に挨拶をすることで、子どもたちも挨拶ができるようになっている。地域との関係を深め子どもが様々な体験や交流ができる機会を充実させている。

#### 子どもの個性を伸ばすプログラムを充実させている

法人として、生活や遊びを通して子どもの個性を伸ばす「エデュケアプログラム」に力を入れている。当園においても、さまざまな活動を通して子どもの個性を伸ばして表現できるような活動に努めており、年齢別にリトミックを取り入れたり、バイリンガルの時間を設けるなど、子どもが多様な活動の中で自由に表現できるように援助している。エデュケアプログラムを実践していくために、ポピンズアプローチという独自の手法を用い、支援を充実させている。また、ドキュメンテーションを作成して子どもの成長を可視化させたり、カンファレンスを充実させ保育の質の向上に力を入れている。

#### ◇改善を求められる点

#### スタッフ間の情報共有をさらに充実させることを目指している

子どもや保護者の状況に変化があった際の情報はクラスミーティングで共有し、個人の記録は常に閲覧できる棚に保管して確認できるようにしている。保護者とは連絡帳や朝・夕の送迎時に直接聞き取りしながら子どもの情報を共有し、配慮が必要な場合は速

やかに伝達できる体制が整っている。退園時には、保護者の意向を十分に踏まえた個別の対応を行っており、全スタッフが子ども全員との積極的に関わりを持ち、それぞれの育ちをミーティングで共有することになっている。ただし、子どもに関わる全ての業種が入り交じる職場環境であることから、細かな連携ミスで保護者に迷惑をおかけしてしまうことを認識しており、さらに情報共有の質を高めることを目指している。

#### **保育環境をさらに整えることを目指している**

各クラスは低い棚で仕切られた開放感のある保育室となっている。扉のついたロッカーなどが個別に設けられ、白を基調にした大変清潔感のある保育室になっている。統一感のある保育室ではあるが、室内環境が手狭なことは否めない。コーナー遊びや昨日の遊びの続きなどを作るスペースが限られていることを園では認識している。保育の連続性を確保するためにも、保育士一人ひとりが保育の連続性についてさらに工夫することを課題としている。

#### **⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント**

第三者からの設問に答えたり、ヒヤリングをされたりすることにより、園の現状を把握できたことに加え園として改善すべき点や良い点などの把握にもつながった。園全体で取り組むべき内容に関しては職員と工夫をしながら地域に根付いた保育園になるように努力を続けていきたい。

#### **⑧第三者評価結果**

別紙2のとおり